

保護者の皆様

大阪府立摂津支援学校  
校長 村上 哲也

令和7年度 「学校教育自己診断」実施と結果について（報告）

1. 実施時期・実施方法

- 【保護者】 10月下旬にさくら連絡網アンケートを配信（匿名回答）  
未登録者には用紙配付 11月10日メ切（11月17日に延長）
- 【児童生徒】 10月下旬に用紙で配付 11月10日メ切（11月17日に延長）  
（家庭で実施、匿名回答）
- 【教職員】 10月下旬にさくら連絡網アンケートを配信（今年度から記名式）

2. 提出率

（過去3年の比較）※さ：さくら連絡網で回答 紙：用紙で回答 イ：イラスト版 文：文章版

	学部\年度	令和5年度	令和6年度		令和7年度	
保護者	小学部	92.7%	90.9% (さ 100・紙 0/110名)	82.3%	76.8% (83/108名)	77.7%
	中学部	90.3%	80.0% (さ 88・紙 0/110名)		80.8% (101/125名)	
	高等部	85.1%	75.9% (さ 81・紙 1/108名)		75.0% (さ 80・紙 1/108名)	
児童生徒	小学部	10.0%	29.0% (132 /110名)	48.7%	37.0% (140 /108名)	49.2%
	中学部	67.3%	54.5% (137・文 23/110名)		56.8% (125・文 46/125名)	
	高等部	57.9%	63.0% (122・文 46/108名)		52.7% (119・文 38/108名)	
教職員		100%	98.5% (139/141名)		100% (144/144名)	

3. 結果報告と考察（集計は別表参照）

①保護者向け診断票 肯定的回答（A.よくあてはまる+B.ややあてはまる）の割合について  
（ ）は昨年度の数値

	90%台	80%台	70%台	60%台	全項目数	全項目平均	R5	R6	R7
項目数	5 (5)	12(12)	5(3)	1(3)	23 (23)	84.0%	83.3%	83.8%	

・肯定的回答の割合が一番低い項目		R5	R6	R7	経年比較
12	学校はパソコンやタブレットを使ってわかりやすい授業を行っている。	64.5%	67.8%	66.0%	-1.8
・肯定的回答の割合が一番高い項目		R5	R6	R7	経年比較
16	学校からは、地震や台風などの場合の対応について、家庭に知らされている。	97.5%	96.7%	97.0%	+0.3
・経年比較で肯定的回答の割合が一番増加した項目		R5	R6	R7	経年比較
8	いじめについて子どもが困っていることがあれば、学校に気軽に相談できる。	72.6%	65.2%	74.0%	+8.8

- ・肯定的回答の割合は昨年度とほぼ同じだった。
- ・「Eわからない・判断できない」が20%を超える項目は7「環境、国際理解、暮らし」8「いじめ」、9「進路

指導」12「ICT活用(1人1台端末)」、21「PTA」で、21以外は昨年度より継続。これらの項目については引き続き学校の取り組みが十分に伝わっていないといえる。

- ・16「防災」については毎年様々な形で引き渡し訓練を実施していることで保護者に浸透していると考ええる。
- ・8「いじめ」について、「わからない」という回答が経年比較で-5.9ポイントと減少し、肯定的回答も増加した。今後いじめ防止の丁寧な取り組みを継続していくことが重要と考える。

## ②児童生徒向け診断票

肯定的回答(文章版「A.よくあてはまる+B.ややあてはまる」、イラスト版「はい」)について

	R5	R6	R7
全項目平均	85.2%	78.8%	83.0%

( )は昨年度の数値

	90%台以上	80%台	70%台	60%台	全項目数
文章版	6 (0)	8 (10)	3 (6)	0 (1)	17 (17)
イラスト版	1 (1)	2 (3)	3 (3)	4 (2)	10 (10)
イ、文 合併	3 (0)	8 (8)	5 (5)	1 (4)	17 (17)

- ・児童生徒の肯定的回答は全体的に増加した。児童生徒の評価は年度によって大きく変動する傾向があることと、家庭で回答する形に変更して2年目になるので回答の傾向を見ていく。
- ・自己肯定感については80%台以上を維持している。

2	先生は、一人ひとりのことを大切にし、よく理解してくれている。	R5	R6	R7
		87.6%	80.6%	85.1%
4	先生は、自分が頑張ったことを認めてくれる。	87.2%	89.9%	90.5%

## ③教職員向け診断票 肯定的回答(A.よくあてはまる+B.ややあてはまる)の割合について

( )は昨年度の数値

	90%台	80%台	70%台	60%台	全項目数	全項目平均	R5	R6	R7
項目数	23(15)	7(13)	2(4)	0(0)	32(32)		86.9%	88.7%	93.0%

- ・教職員の肯定的回答は全体的に増加した。記名式としたことで率直な意見が出にくくなることが懸念されたが、項目間に明確な評価の高低差がみられることから、今までと同様に回答が得られたと考えられる。また、意見欄の回答数も昨年度より4件増加している。
- ・「給食」「家庭との連携」「防災」等の肯定的評価が高い一方、評価が一番低いのは昨年度と同じく「学校運営」だった。昨年度よりは+3.1ポイントで改善している。

## ④各診断票の横断比較について(別紙資料6参照)

特に認識の差が大きいものについて (肯定的回答 保護者<教職員)

12	保護者	肯定的	否定的	わからない	児生	教職員	保護者との横断比較
	学校はパソコンやタブレットを使ってわかりやすい授業を行っている。	66.0%	5.7%	28.3%	79.2%	89.6%	-23.6

- ・「ICT」について、学校での活用は定着しており、児童生徒の肯定的回答の割合も低くはない。保護者の「わからない」の回答率が全項目中一番高く、肯定的回答の割合が一番低い項目なので、ICT活用の学習の様子や成果が保護者に十分伝わっていないと考えられる。

#### 4. 意見についての回答（別紙資料2参照）

- ・8月末の登校日の設定の要望については、夏季休業明けに無理なく学校生活に戻れるように本校の教育課程とすり合わせながら検討する。
- ・本校では抽出授業ではなく、国語などの座学は児童生徒の実態に応じた課題別のグループで学習している。グループ内であっても異なる課題で対応する場合もある。
- ・小学部の児童のバス停までの自主通学については今後検討していく。
- ・教員とバスの添乗員との連携不足について、学校では担任と添乗員と情報共有する時間を設けたり、添乗員から児童生徒について学校へ連絡する方法を取り入れたりしている。日々の連携についても継続して努めていく。なお、バスの添乗員とアプリを活用しての連携は、添乗員の業務の負担が予想されるため今のところ計画していない。
- ・個人懇談時の校内駐車について、児童生徒の安全確保のため原則認めていない。とりかき高等支援学校が併設しているため本校児童生徒の下校後であっても同様。また、グラウンドの状態の維持のため、グラウンドへの車の乗り入れはできない。
- ・給食の量が少ないとのご意見について、本校では、厚生労働省「日本人の食事摂取基準」をもとに、知的障がい支援学校の児童生徒の身体活動量に応じた必要カロリーを算出し、給食の献立や提供量を設定している。子どもの実態に応じて各クラスで増減して配食することができるため、ご心配なことがあればその都度担任まで連絡いただきたい。
- ・各種説明会等についてオンライン化を検討する。進路説明会の資料はHPに載せるなどしている。
- ・PTAの活動は役員が各活動でサポート委員「お手伝いし隊」を募る形を継続していく。
- ・感染症の流行について周知してほしいとのご意見について、感染症が流行する時期には、流行状況について、さくら連絡網を用いて週1回の情報発信を始めている。
- ・修学旅行の際、可能な範囲でさくら連絡網を通じて児童生徒の様子をお知らせする。

※その他、いただいた意見は各部署で共有し今後の学校運営や教育活動に活かしていく。

#### 5. 今後の課題と次年度に向けて

##### ① 情報発信

引き続きブログやさくら連絡網を効果的に活用し、学校の教育活動や児童生徒の様子が保護者に分かりやすく伝わるよう発信を継続する。

##### ② 教員連携、教員間の情報共有

今年度を実施した学部間の教員交流を次年度も継続し、学部間の連携をさらに深める。学校全体で共通理解を持ちながら取り組めるよう、情報共有にも引き続き努めていく。

##### ③ キャリア教育

各学部の自己実現や社会的自立に向けた取り組みを共有し、学年・学部を通してつながりのある学びとなるよう進める。

#### 6. 学校運営協議会より

- 「ICT活用」について、授業参観に来ればICT機器を使って授業をしているので活用されていることがわかる。授業参観に参加できる人、できない人で認識がわかれてしまうのは残念。
- 教職員の働きやすさは子どもの教育にも関わる大切なこと。育休などの取得の推進において、取得する側のハードルは高いと推測する。他の教職員に迷惑がかかることを懸念してしまうのではないかと。臨時の職員の配置や業務量の削減などがあるとうい。
- 子どもたちから寄せられた「やりたい」などの意見をぜひ吸い上げてほしい。
- 教職員の意見を見ているとやる気のある教員が多いと感じる。
- 教職員の意見は課題として取り上げ、今年度記名式にしたことを利用して個別に聞き取り、フィードバックすることが学校運営に関わる大事なことではないか。

- 保護者の中でも学校教育への関心度合いは様々で二極化しがち。保護者が子どもの学校での様子を知ることが進路にもつながる大事なことだということを保護者に発信できればよい。
- 保護者の提出率は他校に比べて非常に高いので学校に関心がある方だと思う。

#### **7. 来年度の実施に向けて**

- 次年度も、教職員全員の意見を学校運営に反映させるため、記名式で実施し提出率 100%をめざす。
- 児童生徒の意見欄に保護者が回答されることについて、保護者はさくら連絡網アンケートに回答していただくようお願いする。